

変革・創造・実践

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

2014
January

No. 142

1



JA全農ぐんま



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組めます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組めます。

事業のうごき 1

営農総合支援センター

- 野菜の生産拡大のための取り組み支援
- J A 営農経済渉外活動の導入・実践にともなう総合的な支援
- 担い手支援のための取り組み
- 食の安全・安心対策への取り組み

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳の計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
(優良 E T 卵産子の活用促進)

米麦特産課

- こんにゃく 荒粉・精粉販売推進 (入札の実施)
- 菌茸類種駒・種菌予約推進
- 桑苗予約推進 (平成 26 年 3 月引渡予定)

園芸部

園芸販売課

- 共計雨除けほうれん草販売 (周年)
- 共計チンゲンサイ販売 (周年)
- 共計味にら販売 (周年)
- 共計下仁田ねぎ販売 (1 月末日迄)
- 共計上州ねぎ販売 (2 月末日迄)
- 共計白ねぎ販売 (3 月末日迄)
- 共計土ねぎ販売 (3 月末日迄)
- 共計春菊販売 (3 月上旬迄)

販売促進課

- 秋冬野菜販売促進
- もやし類・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進

園芸資材課

- 春用出荷資材予約推進
(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 平成 26 年産青果物段ボール予約推進
- 温床資材予約推進 (農ビ・ポリ・マルチ他)
- 春用野菜種子推進
(ほうれん草・枝豆・とうもろこし他)
- 種馬鈴薯納品

生産資材部

花木流通センター

- 売出し・フェアの実施
 - ☆花木流通センター
 - 1 月 25 日 (土)～26 日 (日) 特選 洋蘭フェア
 - 1 月 25 日 (土) いちご祭り
 - 1 月 25 日 (土) 午前市
 - ☆愛菜館
 - 1 月 8 日 (水)、18 日 (土)、29 日 (水) 8 の日 お米特売
 - 1 月 25 日 (土) 午前市

- 造園工事推進

肥料農薬課

- 水稻培土早期引取推進
- 施設園芸肥料推進
- セルフブレンド推進
- 麦作除草剤推進

生活部

生活課

- 太陽光発電推進 (周年)
- 生花利用拡大運動推進 (周年)
- 蔵出しいよかん・せとか・甘平推進 (1 月～2 月)
- 仕込み味噌推進 (25/10 月～26/3 月)

施設住宅課

- 賃貸アパート・個人住宅推進 (周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進 (周年)
- 住友不動産「新築そっくりさん」推進 (周年)

自動車燃料部

ガス課

- 第 2 回お客様謝恩キャンペーン
- 新生活応援セール

新年のご挨拶

新春のお慶びを 申し上げます



新年、明けましておめでとうございます。

J A全農ぐんまを代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、系統経済事業に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

わが国の経済は、安倍政権の経済政策「アベノミクス」による円安株高の恩恵が広く浸透し、輸出採算の改善や堅調な個人消費によって、景気の回復が広がっております。しかし、公共事業や消費税増税の駆け込み需要が景気を底上げしていることもあり、先行きはなお不透明な状況となっております。

農業を取り巻く環境におきましても、農業者の高齢化と農業後継者不足、耕作放棄地の増加、農畜産物価格の低迷、生産コスト上昇等、非常に厳しい状況が続いております。さらに、J Aグループの最重要課題であるT P P交渉は、昨年末の妥結は見送られましたが、最終合意に向けた交渉が今後も重ねられ、厳しい局面が続くことになりそうです。

また、昨年は日本型直接支払制度や経営所得安定対策が見直され、26年度以降の水田農業政策の方向性が示されました。新たな政策が具体化されたことは、持続可能な農業・農村の実現に向けた第一歩になるものと考えております。J Aグループといたしましては、米の安定供給や自給率の向上など、地域農業の持続的発展に向け、組織を挙げて取り組んでまいります。

群馬県は首都圏に近く、長い日照時間と標高差を生かし、平成23年の群馬の農畜産物は生産量で全国5位以内のものが20品目もございます。年間の農業産出額は約2,200億円で推移しておりまして、うち野菜と畜産で全体の8割を占める農業県でございます。

このような中、J Aグループ群馬では、第39回J A群馬県大会において、「次代へつなぐ協同」をテーマに、以下の4つの取り組みを実践することを決議いたしました。

- 1.持続可能な農業の
実現のための「地域農業づくり」
- 2.豊かで暮らしやすい地域社会の
実現のための「地域くらしづくり」
- 3.地域に即した「J A経営基盤強化」
- 4.「県民理解の醸成」に
向けた広報や農政活動の展開

今年度は、J A群馬県大会決議実践の2年目にあたり、昨年策定した「新農政に関する提言」と併せて確実に実践し、農業者の所得増大と食料自給率・自給力の向上に取り組んでまいります。

また、J A全農ぐんまといたしましては、生産者・J Aと一体となり、県産農畜産物の安定供給と生産コストの削減を目指して、販売力の強化や各種生産資材コストの低減対策など、さまざまな工夫と取り組みを行ってまいります。

さらに、安心して食べられる群馬県産農畜産物を皆さまへお届けし、「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」として本年も努力してまいりますので、県産農畜産物を取り巻く状況と消費拡大へのご理解・ご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。



全国農業協同組合連合会 群馬県本部
運営委員会会長 長岡 武



人形・ぬいぐるみ供養祭
(12.1 JAアシストホールまえばし)



第14回群馬県きのこと料理コンクール
(12.1 前橋市内)

大切にしていた心をいつまでも

12月1日(日)、JAアシストホールまえばしにおいて「人形・ぬいぐるみ供養祭」が開催されました。この催しは、思い出が詰まった人形やぬいぐるみとのお別れに際し、僧侶の読経のもと供養するもので、持ち込まれた人形達は壇上に丁寧に並べられ、参加者は最後の別れを惜しみました。会場では、地元新鮮野菜や加工品の即売会・お茶の試飲・抽選会等のイベントも行われ、多くの人で賑わいました。

アイデア料理できのこをPR

12月1日(日)、群馬県主催、当県本部・群馬県きのこと振興協議会等後援の「第14回群馬県きのこと料理コンクール」の本審査及び表彰式が行われました。会場では、参加者が調理したオリジナル料理について、味・独創性・普及性等が審査され、最優秀賞の群馬県知事賞には、芝崎梨乃さんの「ホットケーキミックスでチョコス風キノコドーナツ」が選ばれました。



JA群馬厚生連特別養護老人ホーム「みのりの丘」竣工式典
(12.6 JA群馬厚生連)



JAにっためどり生品支店オープニングセレモニー
(12.9 JAにっためどり生品支店)

多様な介護ニーズへ対応

12月6日(金)、JA群馬厚生連において「特別養護老人ホーム『みのりの丘』竣工式典」が行われ、施主代行を務めた当県本部も出席しました。挨拶に立った長岡会長は、「高齢者福祉事業の重要性が高まる中、利用者に安心して過ごしてもらえよう、早期安定運営を目指したい。」と述べました。70床の施設には、憩いの場であるパブリックゾーンやサンルーム等が設置されており、1月6日(月)に開所しました。

新店舗堂々オープン

12月9日(月)、「JAにっためどり生品支店オープニングセレモニー」が行われ、施主代行を務めた当県本部も出席しました。生品支店は、築35年が経過したことから新築する運びとなり、昨年7月より建設を開始しました。挨拶に立ったJAにっためどりの石原専務は、「立派な新店舗にふさわしいサービスを提供し、事業の充実を図りたい。」と述べ、参加者と共にオープンを祝いました。



群馬県園芸振興協議会・群馬県JA畜産連絡協議会
合同組合長（理事長）視察研修会
（12.9～10 島根県）



JAアシストホールたかさき 寄せ植え講習会
（12.12 JAアシストホールたかさき）

■ 優良取り組み事例を視察

12月9日（月）～10日（火）、「群馬県園芸振興協議会・群馬県JA畜産連絡協議会合同組合長（理事長）視察研修会」が開催されました。この研修会は、園芸と畜産事業による耕畜連携の取り組みを検討し、振興に資することを目的としており、県内JA・関連団体の役員等が参加しました。当日は、島根県の「島根ワイナリー」にて、ぶどう加工の視察やしまね牛の概要説明、意見交換等が行われました。

■ お正月の寄せ植えで冬を楽しもう

12月12日（木）、「JAアシストホールたかさき 寄せ植え講習会」が開催され、JAたかさき女性会やねりん倶楽部の会員約150名が参加しました。当日は、花木流通センターの職員を講師に迎え、ジュリアン・ガーデンシクラメン・ハボタン等6種類の花を用いたお正月の寄せ植えをつくりました。参加者は、互いの作品を見せ合いながら寄せ植えを楽しみ、交流を深めました。



たくあん漬け・白菜漬け講習会
（12.21 愛菜館）



ちびっこもちつき大会
（12.22 花木流通センター）

■ 昔ながらの漬け方を伝授

12月21日（土）、愛菜館において「たくあん漬け・白菜漬け講習会」が開催されました。当日は、(有)須田商店の社員を講師に招き、樽を使用した漬け方の講習が行われました。主催者の須田さんは、「自分で漬ける人が少なくなっているが、手間暇かけて手作りのものは格別に美味しい。若い世代の人にも伝えていきたい。」と話しました。男性の参加者も多く、地域交流の場ともなっています。

■ 初めてのもちつきに大興奮

12月22日（日）、花木流通センターにて「ちびっこもちつき大会」が開催され、約30名が参加しました。この催しは、日頃から店舗を利用してくださっているお客様へ感謝の気持ちを込めて、毎年開催されています。臼と杵を初めて見たという子供も多く、家族の声援をうけてもちつきを体験しました。つき終わったもちは、きなこ・からみ・醤油もちとして参加者等に振る舞われました。

優秀な肉牛枝肉が競い合う

牛肉消費の最需要期となる12月、安全性と品質の高い牛肉を展示・PRすることにより、県産牛肉の知名度を高め、畜産経営の活性化を図ることを目的に、各団体の共進会が(株)群馬県食肉卸売市場を会場に開催されました。それぞれの共進会で最優秀賞を受賞した方々をご紹介します。



表彰式の様子

●第21回群馬ふれあいミートフェスタ 群馬県枝肉共進会 (肉牛の部) (12月2日(月))

(主催：群馬県食肉品質向上対策協議会)

「和牛の部」 境野 文江 (JA前橋市)

「交雑種の部」 六本木 衛 (JA前橋市)

●第52回上州牛枝肉展示会 (12月9日(月))

(主催：(株)群馬県食肉卸売市場)

「黒毛和種の部」 (株)加藤牧場 (JAにったみどり)

「交雑種の部」 六本木 衛 (JA前橋市)

●第19回肉牛枝肉共進会 (12月16日(月))

(主催：群馬県JA肉牛肥育部連絡協議会)

「和牛の部」 小山 拓男 (JAにったみどり)

「交雑種の部」 須田 愛作 (JA赤城たちばな)

JAMCソーラーエネルギー合同会社 板倉発電所を開所

●板倉発電所



JAグループは、太陽光発電等による再生可能エネルギーの普及に積極的に取り組んでおり、全農は、三菱商事、JA三井リースと連携し、JAMCソーラーエネルギー合同会社を設立しました。同社は、地球の環境保全への取り組みと資産の有効活用を図るため、遊休地への太陽光発電設備の設置を検討してきたJA邑楽館林と共同し、板倉発電所を設置しました。

12月24日(火)には開所式が執り行われ、須藤本部長は、「JA邑楽館林に対し、当事業へ理解と賛同いただいたことに厚く御礼申し上げます。」と挨拶し、JA邑楽館林の小池組合長は、「発電による売電収益の一部は、農協事業の運営に大きな影響を与える。」と祝辞を述べました。

板倉発電所は、JAMCソーラーエネルギー合同会社としては県内初の発電所であり、設置容量は650kW(パネル枚数2,688枚)、年間予想発電量は721MWhとなっています。これは、一般家庭の年間電気使用量120軒分に相当します。今年度は、JA碓氷安中・JAあがつま・JA利根沼田・(株)群馬県食肉卸売市場での開設も予定されており、今後も多くのJA関連施設への普及が期待されます。

●開所式でのテープカット



みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名／提供	放送日 ※再放送日	時間
からっ風が育む冬野菜／JA邑楽館林	※ 2月2日(日)	AM 8:00～8:30
	2月3日(月)	PM 9:00～9:30
地域に広めたい！食農教育／JA前橋市	※ 2月9日(日)	AM 8:00～8:30



三隅 有里子アナ

がんばってまーす!

INTERVIEW

JA邑楽館林 園芸部 園芸流通課
農産物直売所「ぼんぼこ」

間下 聡美さん

Profile

ましも・さとみ (24歳)

趣味.....旅行

好きな食べ物.....スイーツ

嫌いな食べ物.....貝類・小豆

●職場の皆さんから見た間下さん

「2年目ですが、様々なことを吸収しようと努力している姿が印象的です。食育ソムリエとしての活躍も期待しています。」

「毎日笑顔で元気よく！安全・安心・新鮮を届けたい」

——どうしてJAで働こうと思ったのですか？

農業を営む祖父の勧めもあり、幼い頃から親しみのあったJAへの就職を決めました。

——現在の仕事内容を教えてください。

農産物直売所「ぼんぼこ」にて、接客や商品の受発注、品出し等を行っています。

——昨年入組したばかりだそうですね。

はい。生産者や職場の皆さんのおかげで毎日楽しく働いています。

——「ぼんぼこ」はどのような直売所なのですか？

品質・品揃え・サービスに自信があり、楽しんで買い物ができる直売所です。新鮮な野菜・果物・こだわりの加工品等、群馬の美味しさを笑顔と共に提供しています。

——仕事をするにあたり、気を付けていることはありますか？

店舗では、様々な物事に瞬時に対応しなければなりません。新人であろうと、お客様からは一職員として見られています。その為、商品をた

だ覚えるのではなく、実際に自分で調理して食べてみることで、私らしく商品の良さを伝えようと心がけています。また、生産者の方々と積極的にコミュニケーションを取り、お互いに気持ち良く仕事ができるよう努めています。

——今の時期、おすすめの商品は何ですか？

いちご・白菜・ちぢみほうれん草です。多くの人に冬の美味しさを味わって欲しいです。

——趣味は旅行だそうですね。去年はどこへ行きましたか？

はい、7月に初めて沖縄に行きました。本当に海が綺麗で、リフレッシュできました。

——今後旅行してみたい場所はどこですか？

ヨーロッパに行ってみたいです。京都への一人旅もしてみたいです。

——旅行の他にも趣味はありますか？

最近はスケートボードにはまっています。生産者の方に教えてもらい、練習しています。

——とても活動的なんですね。最後に、今後の意気込みを聞かせてください。

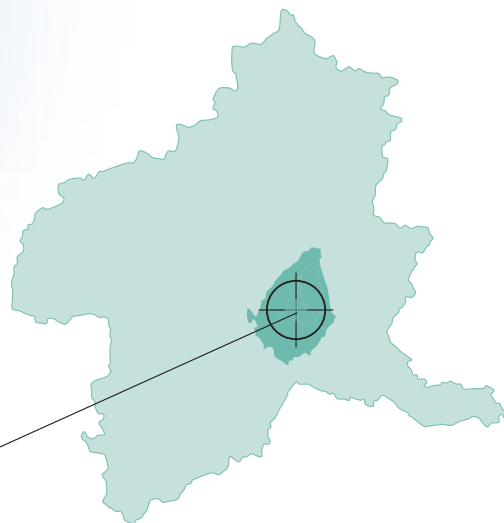
「ぼんぼこ」では、生産者が丹精込めてつくった安全・安心・新鮮な農畜産物を豊富に取り揃えています。県内だけでなく、県外から来てくださるお客様も多く、群馬の美味しさをPRする機会にも恵まれています。今後一層の活性化を図る為にも、生産者の皆さんと協力し合い、より良い店舗づくりを目指し頑張りたいと思います。

笑顔が素敵な間下さん、これからも頑張ってください。ありがとうございます。



農業 チャレンジャー

JA前橋市



時代に合った農業を

JA前橋市管内 池田 郁雄 さん



池田 郁雄 (いけだ・いくお) さん

1976年生まれ、37歳。

JA前橋市粕川支所青年部・前橋地区農業青年クラブ連絡協議会園芸クラブ 所属。

栽培面積：33a
趣 味：剣道

刺激を受けた農業研修

今回のチャレンジャーは、粕川地区できゅうりの施設栽培を行う池田さんです。農業を営む両親の姿を見て育ち、高校生の時に就農を決意したという池田さん。「高校を卒業後、大学の農場で1年間の研修を受けました。きゅうりはもちろんのこと、他の作物や農業機械について実践的に学んだことは、座学では得られない貴重な経験となりました。就農という明確な進路に向けた研修は有意義なものであり、10代の自分を大きく成長させてくれました。」と話します。

就農して9年目。「自分の考えでやってみたい」と、ここ数年は父親とは別のハウスで、自らの知識と経験を活かした栽培方法にチャレンジしています。

地域農業を元気にしたい

池田さんは、JA前橋市粕川支所青年部及び前橋地区農業青年クラブ連絡協議会の園芸クラブに所属し、地域農業の活性化に向けた活動を行っています。「青年部では、食育の一環として、地元の幼稚園や小学校の児童を対象とした田植えや収穫体験等を行い、地域に根付いた活

動を展開しています。園芸クラブでは、勉強会や視察研修会を開催し、生産者が互いに切磋琢磨し合いながら栽培技術の向上に励んでいます。」と話してくれました。「地域に貢献したい」「農業の素晴らしさを伝えたい」という思いから、会員同士交流を深め、一体となって活動に取り組んでいるそうです。

将来への思い

池田さんに今後の展望を伺うと、「これからは、農業のデータ化が重要になると考えています。日々のデータを蓄積することは、作業効率を高め、品質や収量の安定・向上等に繋がると思います。そこに経験や勘を上手く取り入れることで、自分なりの農業を確立させていきたいですね。今は父親と2人ですが、ゆくゆくは経営者として独り立ちすることになります。きゅうり栽培を極め、やりがいのある農業を続けていくためにも、時代に合ったやり方を常に模索しています。」と話してくれました。

見た目ではなく、育てる過程を大切にしたいという池田さん。先を見通し、強い信念をもって農業に従事する姿に、今後の活躍が期待されます。



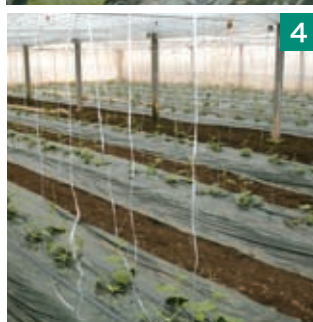
1



2



3



4

1 「家族と過ごす時間や剣道に没頭する時間が良い息抜きになる」と池田さん。

2 5日前に定植を終えたばかり。今（12月）は、枝を紐で吊るす誘引や、灌水作業を行っているそう。

3 JAの担当者と打ち合わせ。「互いに協力し、美味しいきゅうりを消費者に届けたい」と話す。

4 ハウス内の様子。

畜産ダイジェスト

酪農情勢

■生乳生産量

農林水産省は12月25日に11月の牛乳乳製品統計を公表した。11月生乳生産量は58万7,766tで前年同月比2.8%の減となった。北海道は30万3,263t（前年同月比3.3%減）で生産量の全国シェアは51.6%となった。

都府県の生産量は28万4,503tとなり、前年同月比で2.3%減少した。

■販売及び乳製品情勢

11月の用途別処理量は、牛乳等向けが32万5,513t（前年同月比1.0%

減）、乳製品向けが25万7,466t（〃4.9%減）となった。

飲用牛乳等生産量は29万423㎏（〃1.6%減）で前月から0.5ポイント減少し、内牛乳が25万1,206㎏（〃1.8%減）、さらに乳飲料は10万5,477㎏（〃1.9%増）で前月より3.3ポイント増加した。

生乳生産量と用途別処理量

（単位：t、%）

区分	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生乳	全	644,121	594,620	664,447	650,222	671,097	638,214
生産量	群馬(委託実績)	18,743	17,425	19,910	19,599	19,959	18,641
	本会(委託実績)	5,725	5,354	6,125	6,558	6,640	6,158
用途別	飲用牛乳等向け	320,541	301,201	320,571	324,209	346,307	346,396
処理量	乳製品向け	318,662	288,565	339,160	321,246	320,073	287,092
	その他向け	4,918	4,854	4,716	4,767	4,717	4,726
前年	生乳生産量(全国)	99.7	96.8	99.7	100.1	100.0	99.4
対比	〃(群馬)	99.2	95.5	99.5	100.1	99.8	99.5
	〃(本会)	97.3	93.2	96.1	105.7	106.4	106.2
	飲用牛乳等向け	98.5	93.2	98.0	98.9	98.8	98.6
	乳製品向け	101.0	100.9	101.4	101.4	101.3	100.4
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	632,103	607,577	593,120	608,496	587,766		6,891,783
	18,295	17,574	17,052	17,591	17,062		201,849
	5,996	5,665	5,601	5,768	5,564		65,154
	349,569	328,957	353,511	350,359	325,513		3,667,134
	277,756	273,978	234,854	253,213	257,466		3,172,065
	4,778	4,642	4,755	4,924	4,787		52,584
	98.1	96.5	98.2	97.0	97.2		98.4
	99.4	98.4	98.9	98.0	97.4		98.7
	106.1	104.4	107.7	103.9	103.1		102.7
	100.4	99.0	97.9	98.3	99.0		98.2
	95.4	93.6	98.8	95.2	95.1		98.6

肉牛情勢

肉牛枝肉相場（予想）

和牛去勢A5 2,150円中心
和牛去勢A4 1,900円中心

肉牛枝肉相場（1月予想） 最需要期を過ぎて下げの展開。輸入量は低水準だった前年を1割ほど上回るの見方が強く、ホルスの下げ要因になる可能性もある。

和牛去勢A3 1,750円中心
和牛去勢A2 1,430円中心
交雑去勢B5 1,790円中心
交雑去勢B4 1,490円中心
交雑去勢B3 1,300円中心
交雑去勢B2 1,250円中心
乳牛去勢B2 750円中心

枝肉価格の推移（群馬県食肉卸売市場）

（単位：円/kg、税込み）

年・月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均・計
和牛	24年	1,551	1,467	1,537	1,604	1,641	1,665	1,629	1,590	1,649	1,682	1,776	1,638
去勢	25年	1,695	1,750	1,785	1,749	1,829	1,901	1,829	1,832	1,896	1,929	1,999	1,856
A4	前年格差	144	283	248	145	188	236	200	242	247	247	223	218
和牛	24年	1,314	1,230	1,334	1,393	1,482	1,476	1,445	1,349	1,419	1,495	1,592	1,436
去勢	25年	1,585	1,615	1,633	1,627	1,717	1,710	1,664	1,649	1,710	1,780	1,852	1,696
A3	前年格差	271	385	299	234	235	234	219	300	291	285	260	260
和牛	24年	1,018	1,066	1,153	1,233	1,340	1,315	1,249	1,187	1,238	1,376	1,385	1,252
去勢	25年	1,180	1,419	1,479	1,508	1,472	1,522	1,441	1,405	1,521	1,662	1,579	1,481
A2	前年格差	162	353	326	275	132	207	192	218	283	286	194	229

群馬県食肉卸売市場上場頭数

（単位：頭）

年・月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均・計
24年	1,042	932	1,294	1,270	845	1,167	1,467	1,406	1,383	1,336	1,887	1,668	15,697
25年	1,000	1,123	1,025	1,236	929	898	1,126	1,098	1,090	1,162	1,584	1,385	13,656
前年増減	▲42	191	▲269	▲34	84	▲269	▲341	▲308	▲293	▲174	▲303	▲283	▲2,041

■素牛動向

- ①全農・取引基準価格（乳去）260～300kg 488円/kg（前月比103.2%）
②F1価格（去勢）250～300kg 1,281円/kg中心（雌）250～300kg 1,154円/kg中心
③和牛子牛（去勢）591千円中心（前月比103%）（雌）511千円中心（前月比104%）

養豚情勢

枝肉相場関係

豚群馬県食肉卸売市場（上物加重・円/kg）

（単位：円税込）

区分	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
23年(A)		400	473	463	477	460	537	509	473	431	351	384	436	450
24年(B)		390	393	388	397	420	479	443	468	425	365	358	418	412
25年(C)		363	390	404	450	499	485	498	507	499	466	477	521	463
(B-A)		▲10	▲80	▲75	▲80	▲40	▲58	▲66	▲5	▲6	14	▲26	▲18	▲38
(C-B)		▲27	▲3	16	53	79	6	55	39	74	101	119	103	51

豚肉価格形成要因

豚群馬県食肉卸売市場と畜頭数（自家用と畜は除く）

（単位：頭）

区分	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間頭数
と畜頭数	24年	43,106	42,665	43,703	41,308	41,048	37,617	38,294	38,608	37,444	46,194	47,808	46,869	504,664
	25年	45,435	40,085	41,826	42,393	40,315	34,599	40,317	37,843	39,480	47,010	43,823	45,029	498,155
前年比(%)		105.4	94.0	95.7	102.6	98.2	92.0	105.3	98.0	105.4	101.8	91.7	96.1	98.7

肉豚生産出荷予測（全国）

（単位：千頭、前年同月比%）

区分	月	8月	9月	7～9月	10月	11月	12月	10～12月	1月	2月	3月	1～3月	4月	5月
全国出荷予測頭数(千頭)		1,319	1,358	4,051	1,542	1,496	1,568	4,606	1,461	1,344	1,419	4,224	1,453	1,390
前年同月比(%)		99	106	103	101	98	103	101	101	101	102	101	101	100

■生産動向：農水省食肉鶏卵課の肉豚生産出荷予測によると、1月の出荷見込頭数は1,461千頭（前年同月比101%）となっている。その後は2月1,344千頭（〃101%）、3月1,419千頭（〃102%）と予想されている。堅調相場から一転し、じり安で推移する見込み。豚流行性下痢（PED）の影響は5月頃から出始め、頭数減少に繋がる可能性がある。一方で輸入は減少傾向だが、家庭消費向け冷蔵品は前年を1割上回る見通しで国産との競合激化が懸念される。

鶏卵情勢

鶏卵相場関係

■Mサイズ基準値

26年1月225円（見込み） 132%（前年比）

（単位：円）

価格の推移

区分	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
24年(A)		149	185	178	182	168	161	160	157	176	193	209	230	179
25年(B)		171	190	175	172	164	155	157	175	211	220	260	280	194
(B-A)		22	5	▲3	▲10	▲4	▲6	▲3	18	35	27	51	50	15
全国基金	24年	24.3	4.104	15.318	12.987	20.88	24.3	24.3	23.886	9.648	0	0	0	
補填	25年	18.999	0	9.774	15.714	21.645	24.3	24.3	9.306	0	0	0	0	

※平成24年度鶏卵価格差補填事業については、9月以降補填財源はありません。

■価格動向：12月の平均単価は280円（前年同月+50円）と前年同月を上回り、平成25年1月～平成25年12月期平均は194円（前年同期比+15円）であった。

■出荷動向：年末年始の休市期間の供給を絞る強制換羽で前半は品薄感のある取引に終始するが、後半は加工需要を中心に荷動きが活発になる見込み。

■需要動向：菓子などに使う卵黄粉や冷凍全卵は国内相場が高いため輸入物での手当てに動くが、量の確保が不十分で全体の引き合いは強まる見込み。

卵価要因

区分	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
加工卵輸入実績(t)	24年	2,356	1,930	2,508	1,781	2,301	2,198	2,403	2,515	2,609	2,762	2,399	1,921	27,683
	25年	1,838	1,961	1,997	2,283	2,151	1,776	2,084	2,488	1,867	2,201			20,646
前年比(%)		78.0	101.6	79.7	128.2	93.5	80.8	86.7	99.0	71.6	79.7			74.6
餌付羽数(千羽)	24年	7,436	7,459	8,065	7,908	7,874	7,780	7,768	7,007	7,534	7,803	7,238	7,314	91,186
	25年	7,215	7,317	7,520	7,742	7,767	7,895	7,200	6,896	8,170	7,346	7,464		82,532
前年比(%)		97.0	98.1	93.2	97.9	98.6	101.5	92.7	98.4	108.4	94.1	103.1		90.5

■餌付見込

※農水省は餌付け羽数見込みを公表しないことになったため、今後、餌付け羽数実績のみ掲載することになります。

■価格の推移

(7) 21年:175円
(1) 15年:151円 (4) 18年:184円 (8) 22年:194円
(2) 16年:173円 (5) 19年:169円 (9) 23年:188円
(3) 17年:204円 (6) 20年:193円 (10) 24年:181円

■原料情勢

①とうもろこし（シカゴ定期）

12月10日発表の米国農務省需給見通しによると、旧穀12/13年度の供給量は、前回発表から変わらず11,932百万ブッシェル、需要量は前回発表から変わらず11,108百万ブッシェルであった。期末在庫は前回発表から変わらず824百万ブッシェル（在庫率7.42%）となった。

新穀13/14年度の供給量は、カナダでの豊作を受け同国の輸入数量が増加すると見られたことから、前回発表から5百万ブッシェル増加し14,842百万ブッシェルとなった。一方、需要量はエタノール向けや輸出向けが堅調なことを受け、前回発表から100百万ブッシェル増加し13,050百万ブッシェルとなった。期末在庫は前回発表から95百万ブッシェル減の1,792百万ブッシェル（在庫率13.73%）であった。

シカゴ定期は、未承認GMO種子の発見による中国の米国産とうもろこしの輸入拒否懸念が高まったこと、また、米国上院議員がとうもろこしのエタノール使用義務を撤廃する法案を提出し、需要減少の可能性が懸念されたことで相場は下落し、3月限は420セント/ブッシェル台前半で推移している。

米国産とうもろこしのFOBプレミアムは、端境期の高騰した水準からは軟化したものの、農家の売り控えや輸出需要の増加等から底をうち、堅調に推移した。

②大豆粕

12月10日発表の米国農務省需給見通しによると、旧穀12/13年度は前回発表と変わらず供給量は3,239百万ブッシェル、需要量も3,098百万ブッシェルとなり、期末在庫は141百万ブッシェル、在庫率4.55%となった。

新穀13/14年度の大豆需給見通しは、輸入量が増加し、前回発表より10百万ブッシェル増加した一方、需要量は輸出向けが増加したことに加え、搾油向け需要の増加も見込まれていることから、前回発表より30百万ブッシェル増加し、3,274百万ブッシェルとなる。

この結果、新穀13/14年度の期末在庫は前回発表から20百万ブッシェル減少の150百万ブッシェル、在庫率4.58%となった。

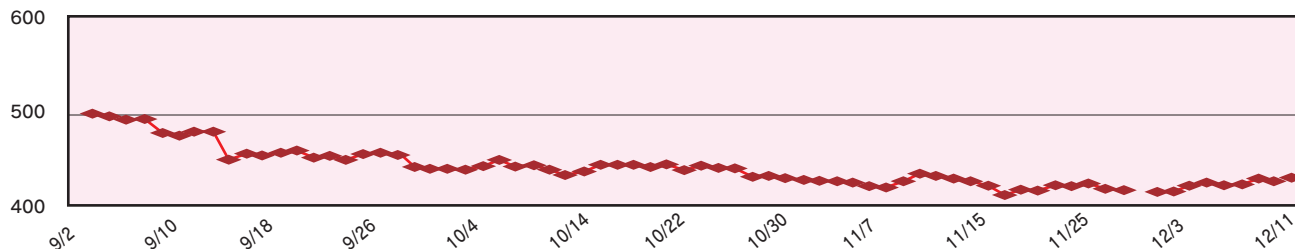
大豆粕のシカゴ定期は、中国による米国大豆の大量成約の影響を受け、現在は450ドル前後で推移している。

■海上運賃

米国ガルフー日本間のパナマックス型海上運賃は、中国向け貨物需要の回復から10月下旬にかけて急激に上昇し、その後一旦下落したものの、年末年始休暇の駆け込み需要から船腹需要が引き締まり、用船料相場は上昇傾向が続いている。現状は60ドル付近で推移している。

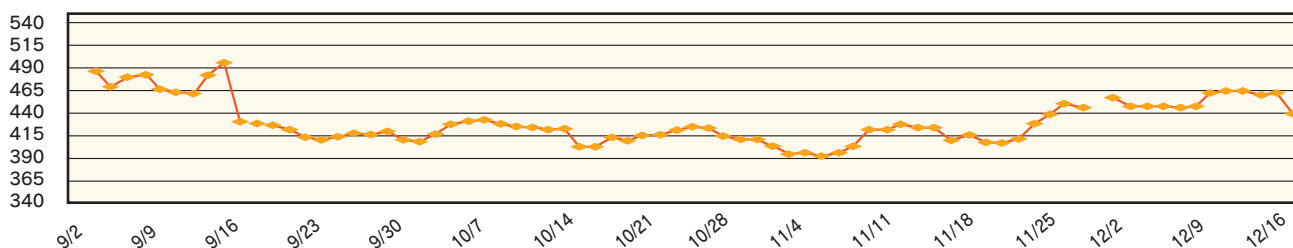
セント/ブッシェル

トウモロコシ 期近限月



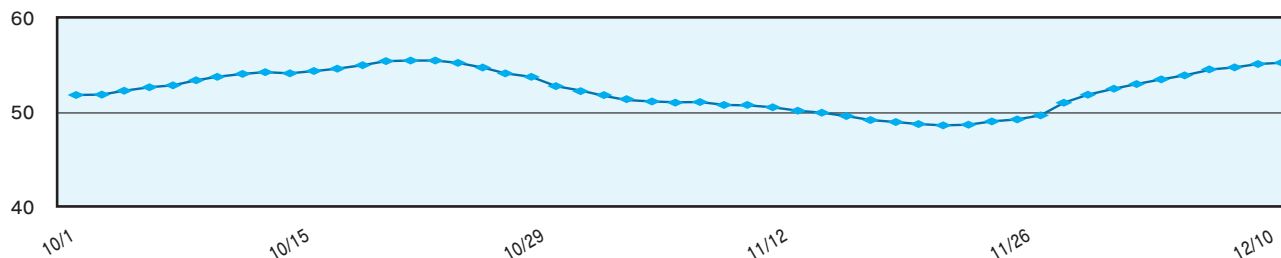
セント/ブッシェル

大豆粕 期近限月



ドル/トン

【海上運賃】



花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！

花木流通センターでは、月に一度、(株)群馬県食肉卸売市場による「上州牛・上州豚豚の試食販売」を行っています。今月は18日(土)に開催し、来場者にはアツアツの上州牛・上州豚豚の焼肉が振る舞われました。来月以降は、2月15日(土)・3月15日(土)に開催予定となっております。ご来場お待ちしております。



2月の売出し・イベント案内

開催日	内 容
2月15日(土)	(株)群馬県食肉卸売市場 上州牛・上州豚豚の試食販売
2月14日(金) ～17日(月)	春一番園芸フェア

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00～18:00

(節電のため7月～9月毎週火曜日定休)

取扱商品

- 園芸資材館/営農・園芸資材等
- ふらわーらんど/鉢花、花苗等
- JA植木コーナー/緑花木、盆栽等
- エクステージ/外構・造園工事等
- ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等
- 外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先 TEL:027-220-2427 FAX:027-220-2424 前橋市亀里町1307-1

愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

- 産直野菜
- 農産加工品
- 店頭精米等



お問い合わせ先 TEL:027-210-7788 FAX:027-210-9811 前橋市古市町106-1

JA全農ぐんま グッドぐんまの旬の市

営業時間:毎週木曜日定休/AM10:00～PM18:00
土日は群馬県農畜産物のPRイベント、平日は県特産品の販売をしています。



- 電車/
東武伊勢崎線
「浅草駅」より
徒歩3分
- 地下鉄/
東京メトロ銀座線
「浅草駅」より
徒歩3分

お問い合わせ先 〒111-0032 東京都台東区浅草一丁目34番4号
TEL:03-3844-0830 FAX:03-3844-0837

旬の市2月のイベント案内

2月8日(土) JA太田市 いちごフェア



※イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》

〒379-2147 群馬県前橋市亀里町1310番
「県本部通信」係まで

E-mail: info-gunma@gm.zennoh.or.jp
※JAメール等でも結構です。

プレート
キャンバスに
見立てて

Art Cooking

Food adviser - 石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



やまと芋とアボカドのサラダ

材 料

2人分

(1人前452kcal)

やまと芋 160g
アボカド 1個
生食用サーモン 100g
塩・コショウ 少々
A (オリーブオイル 大さじ2
レモン汁 大さじ1
練りわさび 小さじ1
塩・コショウ 少々)

作り方

- 1 やまと芋の皮をむき、1cm角に切る。
- 2 アボカドの皮をむき1cm角に切る。
- 3 サーモンを1cmに切る。
- 4 1～3の材料をボウルに入れ、塩・コショウし軽く混ぜる。
- 5 Aの材料をボウルに入れ、混ぜる。
- 6 器に4を盛り、5のソースを添える。